

製品名: Pax-8 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15797**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	62kDa

抗原情報

遺伝子名	PAX8
別名	PAX8; Paired box protein Pax-8
遺伝子 ID	7849.0
SwissProt ID	Q06710
免疫原	抗血清はヒト Pax-8 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 145-194

背景

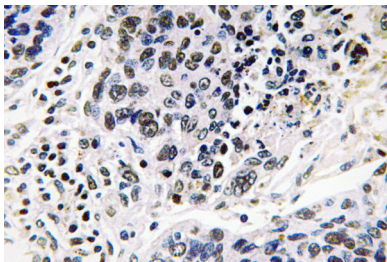
この遺伝子は、ペアードボックス（PAX）転写因子ファミリーのメンバーをコードします。この遺伝子ファミリーのメンバーは、典型的には、ペアードボックスドメイン、オクタペプチド、およびペアード型ホメオドメインを含むタンパク質をコードします。この

核タンパク質は、甲状腺濾胞細胞の発達と甲状腺特異的遺伝子の発現に関与しています。この遺伝子の変異は、甲状腺形成不全、甲状腺濾胞癌、および非典型濾胞性甲状腺腺腫と関連付けられています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。 [RefSeq 提供、2010年3月];注意:ここに示す配列は Ensembl 自動解析パイプラインから得られたものであり、予備データとしてお考えください。;発達段階:排泄器官の発達段階、甲状腺分化過程、および成人甲状腺。;疾患: PAX8 遺伝子の欠損は、先天性甲状腺機能低下症非甲状腺腫症 2 型 (CHNG2) [MIM:218700]の原因です。CHNG2 は甲状腺形成不全を特徴とする疾患で、先天性甲状腺機能低下症の最も一般的な原因であり、症例の 85%を占めます。甲状腺は完全に欠損している場合 (アチレオシス)、異所性に存在する場合、および/または重度の低形成を示す場合があります。異所性甲状腺は最もよく見られる奇形であり、甲状腺組織は舌の付け根に最も多く見られます。;機能:甲状腺細胞型でのみ発現する遺伝子の甲状腺特異的発現のための転写因子であり、そのような細胞の機能的分化を維持します。;類似性:1つのペアドメインを含みます。;組織特異性:排泄系、甲状腺、ウィルムス腫瘍で発現します。;

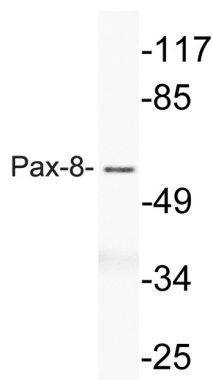
研究分野

がんの経路;甲状腺がん;

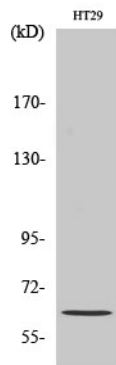
画像データ



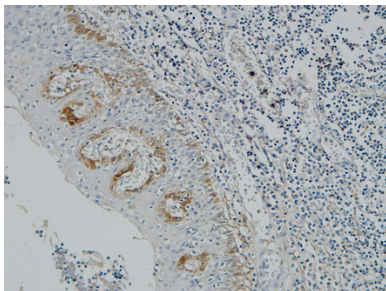
パラフィン包埋ヒト肺癌組織における Pax-8 抗体の免疫組織化学分析。



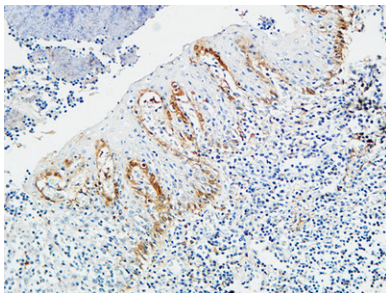
Pax-8 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



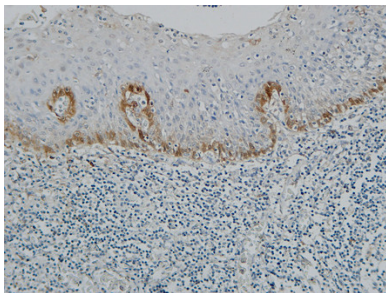
Pax-8 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタン ブロット分析。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。